





# JET 参加者の日本語能力

## レポートの筆者

### 調査・報告書担当者

Rachel Brisson  
事業担当マネージャー

### 報告書協力

CJ Fischer  
会長

Rachel Boellstorff  
副会長

Giuseppe di Martino  
翻訳・通訳コーディネーター

Sara-Jane Seery  
同窓情報資源担当者

Pierce Langdon  
ウェブサイト  
コーディネーター

Olivia Retter  
第4ブロック代表者

Ellie Murphy  
第9ブロック代表者

Rebekah Lan  
第7ブロック代表者

Surie Vixaysakd  
第2ブロック代表者

### 翻訳担当者

Giuseppe di Martino  
翻訳・通訳コーディネーター

### 翻訳協力

Frank J/E Spinelli  
Nicholas Kontje  
Rachel Lam  
Michiko Yoshino

### レイアウト・デザイン担当者

Rachel Brisson  
事業担当マネージャー

---

# 摘要

本報告書は、JET プログラム参加者の日本語に関する能力と目的、および日本語学習手段・資料の活用の分析を述べている。この分析は、JET プログラム参加者になる前の日本語の経験、日本語能力試験（JLPT）の受験や受験する理由、CLAIR を通じた様々な日本語学習の機会の活用、任用団体からの日本語学習の支援、および日常活動での日本語の使用に関するアンケート調査の回答の取りまとめによって可能となっている。

本報告書のアンケート調査は、現役 JET 参加者全員を対象に 2017 年 10 月 30 日から 2017 年 11 月 12 日までの期間に実施した。現役 JET 参加者のおよそ 24% が回答した。JET プログラム参加者になる前に、回答者の 27% は大学レベルで日本語を学習したことがあると答えた。回答者の 35% は日本語を専攻か副専攻に選んで卒業したと答えた。一方、参加者のおよそ 14% は日本語の経験・知識を全く持たずに来日する。

JLPT は現代では最も人気のある日本語能力の測定方法である。しかし、JET プログラム参加者の大多数は来日する前に JLPT を受験したことがない。2～5 年目の回答者のほぼ半数は JET プログラムに参加後に、JLPT の階級の 1 つ以上を受験したことがある。回答者の大多数は専門的能力の開発を主な理由として、JLPT を受験するつもりだと答えた。

CLAIR のサポートにより、日本語講座、翻訳・通訳講座、および JLPT 3 級に合格した参加者への助成金が提供されている。回答者の過半数は CLAIR によって提供される日本語講座 1 つ以上に参加したことがある。翻訳・通訳講座に参加した人の割合は少ないが、いくつかの回答者は翻訳・通訳講座がより多くの参加者に開かれるよう望んでいると答えた。2～5 年目の回答者のほんのわずかは JLPT 3 級の助成金を受け取ったことがあるが、回答者の大多数は JLPT の 3 級以外の試験階級に対しても助成金も望むと答えた。

また、参加者を任用する団体は、参加者の日本語の学習の支援をすることが可能である。回答者の少数は、任用団体から日本語の授業や学習参考書や研究休暇を提供されていると答えた。

多くの JET プログラム参加者は、現在の日本語能力が参加前に比べたら明かに向上していると認知している。日本語学習用自習教材は多くの回答者が利用できるが、対面の学習の機会は回答者に広く提供されていない。

全体的に見ると、日本語能力は JET プログラムの経験の重要な要素である。様々なレベルの日本語能力を持っている参加者が来日し、その能力を強化することで自分の仕事をより効果的にこなせるようになる。利用できる日本語学習支援の幅が増えれば、JET プログラム参加者の生活の質を向上させるうえに、参加者の教員・従業員・文化交流の大使としての役割をより大きく果たせるようになるであろう。

# 目次

はじめに	1
調査方法	2
調査対象	3
結果と分析	4
以前の日本語の経験	4
JETプログラムに参加後のJLPTの受験	7
CLAIRを通じた学習手段・資料	10
任用団体からの支援	14
日常生活で用いる日本語	16
結論と提案	19
質問	22

---



## はじめに

多くの JET プログラム参加者は日本に住んで働くために努力したので、日本語に関して多少の知識を持っている。来日後、JET プログラムに参加している間に、職場や日常生活で日本語を母語者としている日本人と触れ合っているため、さらに日本語学習への意欲が高まる。さらに日本語を学習することで参加者のそれぞれの地域コミュニティとの絆を強めるうえに、職場によりよく適合することにつながる。

アンケート調査の目的は、JET プログラム参加者の日本語学習の経験を調べるとともに、参加者に対し、より学習しやすい提案をすることである。全国 AJET 役員会は本調査の結果を活用し、JET 参加者がよりよく日本語を学習できるよう力を与えることを目指すこととする。

## 調査方法

本報告書のデータは、2017 年 10 月 30 日から年 11 月 12 日までの 14 日間に AJET (JET プログラム参加者の会) により行われた調査の結果である。インターネットで調査し、現役 JET 参加者を対象に実施した。

アンケート調査は和英両語表記で 44 項目設定した。問題形式は様々で、選択式、複数選択式、自由記述式、評価選択式という問題形式で質問した。

アンケート調査の内容は、回答者の人口データ、JET プログラム前、最中の日本語の経験、および CLAIR を通じた日本語学習手段・資料の使用に関する項目であった。

本報告書に記載されているのは、少数第 1 位を 4 捨 5 入した。

# 調査対象

アンケート調査の回答者は合計 1125 人で、全国の現役 JET 参加者の約 23.7% にあたる。その中で、1147 人 (93.6%) は JET プログラム外国語指導助手 (ALT) で、77 人 (6.29%) は JET プログラム国際交流員 (CIR) である。スポーツ国際交流員 (SEA) 1 人が回答した。

回答者人口の割合は全国 JET 参加者人口 (91.3% ALT、8.6% CIR、<0.1% SEA) に合致する。

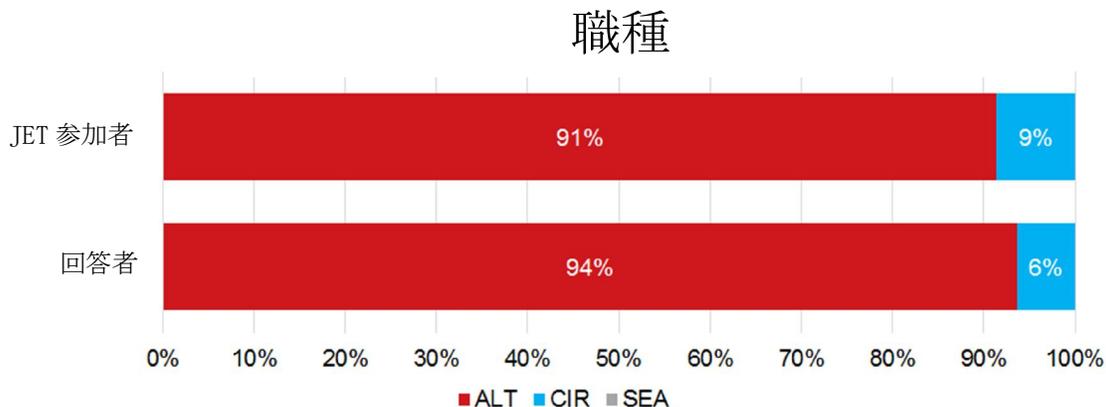


図 1

回答者の割合を見ると最大率 (40.33%) は JET プログラムの 1 年目の参加者であり、次は 2 年目 (29.7%) と 3 年目 (16.7%) となっている。おおむね全体の参加者比率データと相当している。

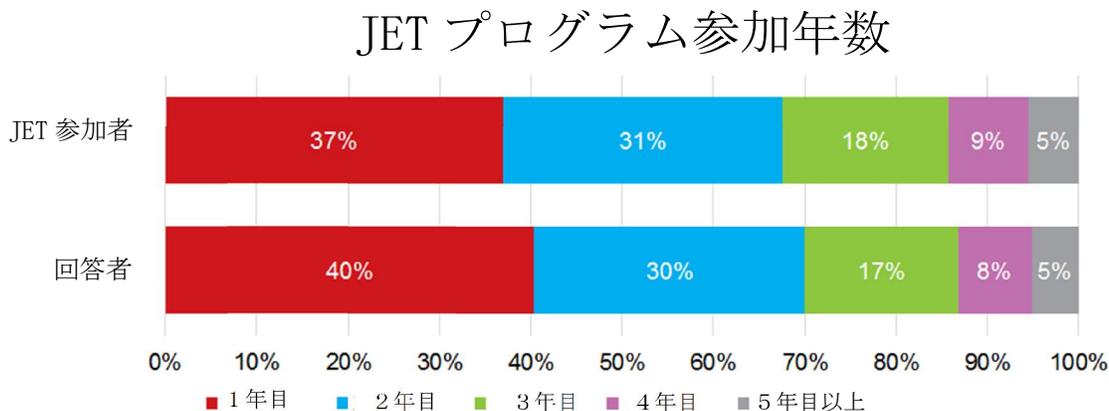


図 2

# 調査結果と分析

## 以前の日本語の経験

JET プログラム参加者は様々な日本語レベルで来日する。本章では、回答者の JET プログラムの前の日本語学習の経験、日本語能力、および JLPT の受験の試みについて論じる。

## 日本語学習

多くの回答者は、JET プログラムの参加者になる前に日本語を学習したことがあると答えた。大学レベルで日本語を学習したと答えた回答者も少なくなかった。回答者の 26.9% は「大学でのいくつかの授業」と回答し、21.7% は「大学の専攻として」と回答し、13.1% は「大学の副専攻として」と回答した。JET プログラムの前に学習したことがないと回答した者は 14.3% に過ぎなかった。

### JETプログラム前の日本語の学習レベル

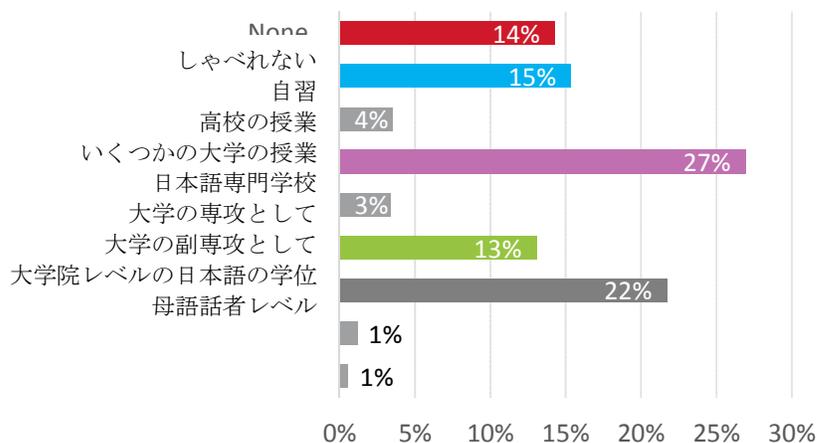


図 3

## JET 参加者になる前の日本語能力

回答者の日本語の学習経験は、JET プログラム参加者になる前の日本語能力にも反映される。回答者は JET プログラムに参加する前の自身の日本語能力レベルについて評価を問われた。回答者の 27.8% は「適度なレベルの日本語を知っていた」と答え、24.1% は「基本的な日本語を知っていた」と答えた。わずか 13.6% は「日本語でコミュニケーションを取れなかった」と答え、2% は「流暢であった」と答えた。

## JETプログラム前の日本語能力レベル

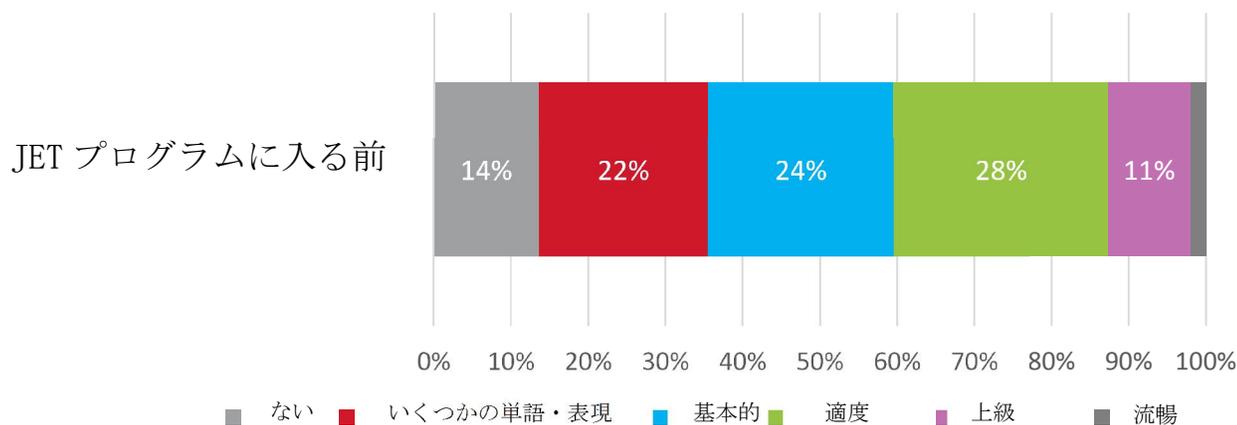


図 4

## JET 参加者になる前の JLPT の受験

日本語を熟知しているにもかかわらず、JET 参加者になる前に JLPT を受験した回答者は少数である。多くの回答者（78.9%）は「JLPT を受験していなかった」と答えた。5%は「JLPT を受験したが合格しなかった」と答えた。多くの回答者は JET プログラム参加者になる前に JLPT を受験しなかったものの、プログラムの前に受験した回答者の中では最も合格率が高かった階級は 2 級であった（5.4%が合格したと答えた）。2 級以外の階級は、回答者の 5%以下が JET プログラムに参加する前に試みたり、また、それに合格したりしたと答えた。

## JETプログラムの前に受験したJLPTの試験階級で最も難易度が高い階級

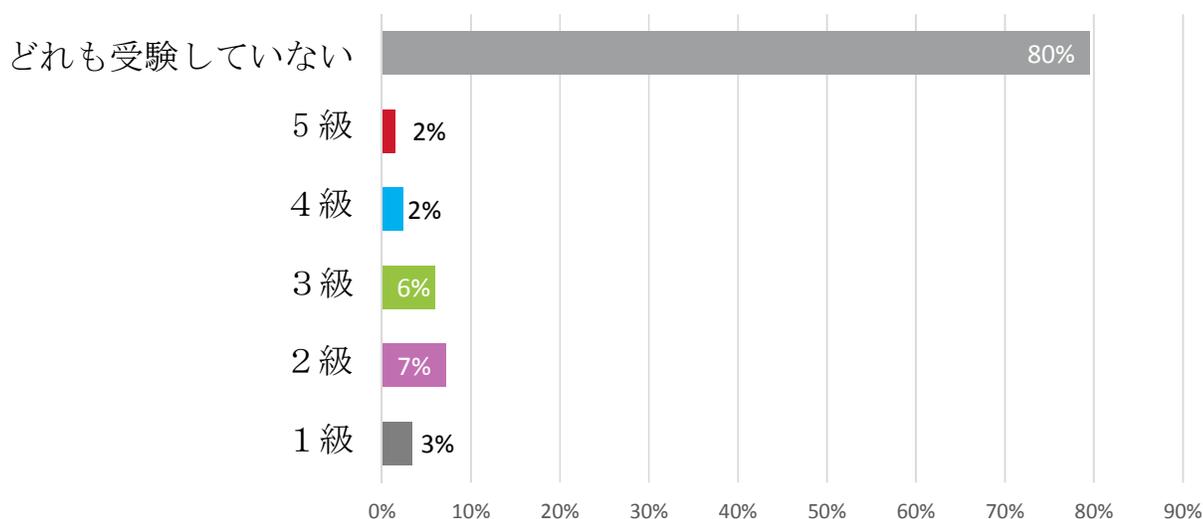


図 5

JETプログラムの前に合格したJLPTの  
試験階級で最も難易度が高い階級

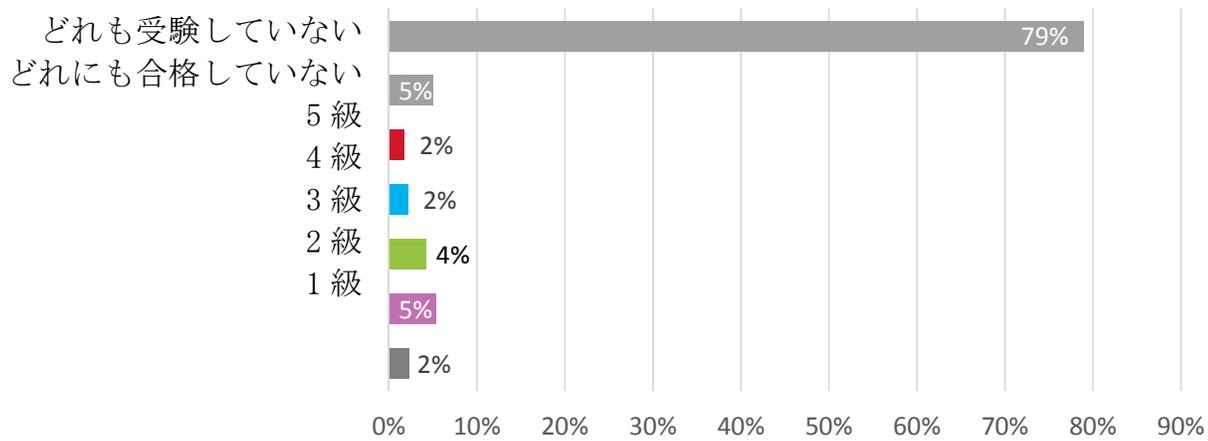


図 6

## JET プログラムに参加後の JLPT の受験

参加者は、JET プログラムに参加している間に JLPT の学習をしたり JLPT を受験したりすることができる。下記に記載されている結果は、回答者の JET プログラムに参加後の JLPT の受験の洞察、動機、受験するつもりのない理由について解説する。

参加者が受験した階級・合格した階級について受験者は JLPT を通して自分の日本語能力を明確に測定できる。アンケート調査が行われた際、1 年目の参加者は JET プログラムに参加してから、JLPT を受験する機会がまだなかった。したがって、2～5 年目の回答者（合計 725 人）の JLPT に対するアプローチ方法を示す。2～5 年目の回答者のほぼ半数は、JET プログラム参加後に「JLPT を受験していない」と答えた。最も試みられた試験階級は 3 級（14.5%）であり、その次は 2 級（14.3%）および 4 級（回答者の 8.0%）であった。回答者の 14.2% は、JLPT を受験したが不合格であった。2～5 年目の回答者の中で、JET プログラム参加後に、最も合格率が高かった試験階級は 3 級（12.1%）であり、その次は 2 級（9.8%）であった。JLPT 4 級には、2～5 年目の回答者のうち 6.2% が合格した。

### JET プログラム参加後に受験した JLPT の試験階級で最も難易度が高い階級（2～5 年目の回答者）

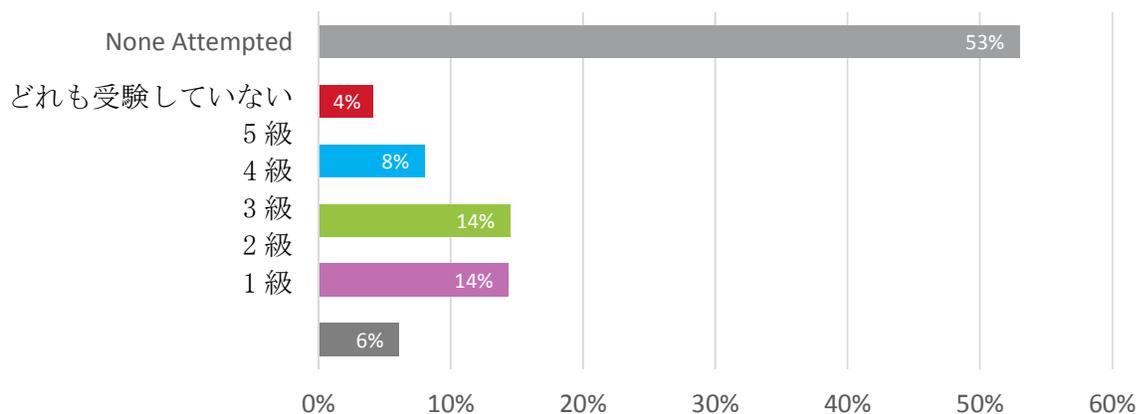


図 7

## JETプログラム参加後に合格したJLPTの試験階級で最も難易度が高い階級(2～5年目の回答者)

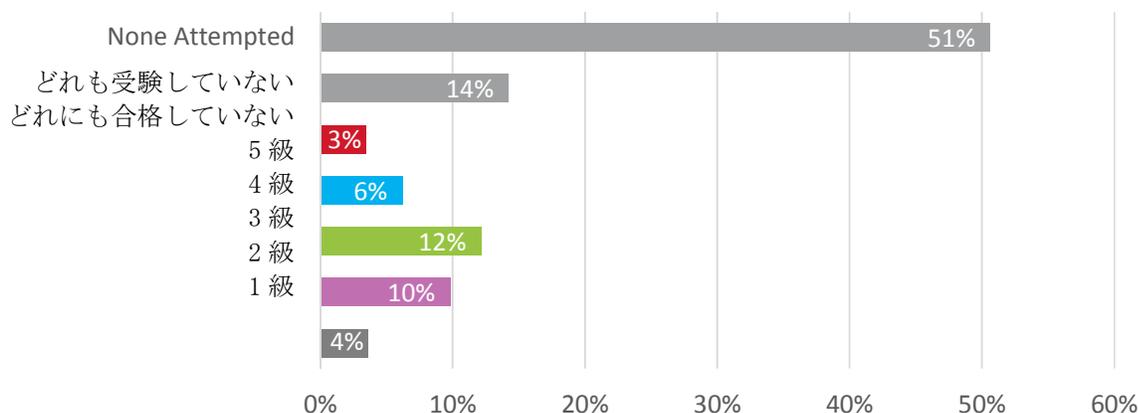


図 8

## JLPT を受験する理由

回答を全体的に検討してみると、回答者の 79.4%は JET プログラムに参加している間に JLPT の階級 1 つ以上を受験するつもりだと答え、20.6%はそのつもりがないと答えた。JLPT を受験する予定のある回答者の理由は、30.2%は「JET プログラムを終えた後の日本での仕事のため」と答え、20.1%は「履歴書を向上させるため」と答え、15.4%は「母国・日本以外の国での日本語に関連している将来の仕事のため」と答え、16.5%は「毎日の生活を楽にするため」と答えた。「人と関わるため」、「課外活動」、「趣味」と答えた回答者は少ない。

## JETプログラムに参加している間に、JLPTを受験するつもりですか。

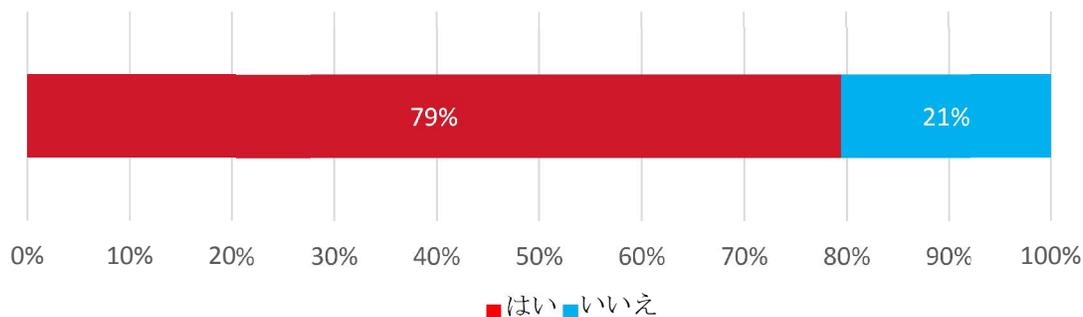


図 9

## JETプログラムに参加している間に JLPTを受験する理由

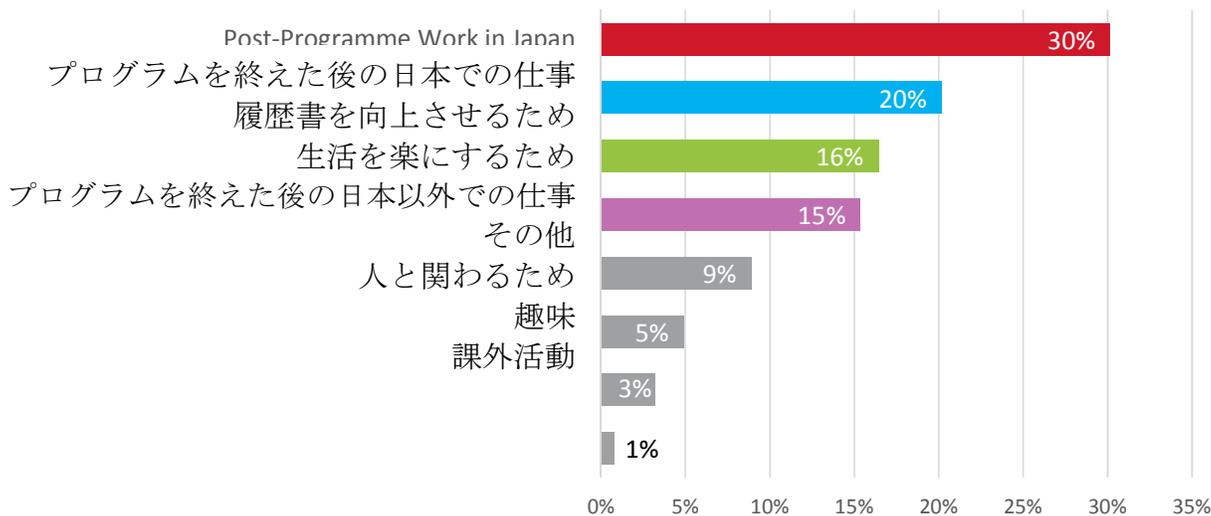


図 10

## JLPTを受験するつもりのない参加者

JETプログラム参加者になったもののJLPTを受験するつもりのない364人の主な理由は、「参加している間にJLPT以外のゴールがある」(26.6%)、「自分の日本語学習の進捗に満足していて、JLPTを受験しなくていい」(26.6%)、または「すでに1級に合格している」(11.9%)と答えた。「受験資格が分からない」か「受験料が高すぎる」と答えた回答者は少ない。ある回答者は、「その他」の欄に、選択肢と同じような内容のコメントを残した。

## JETプログラムに参加している間に JLPTを受験しない理由

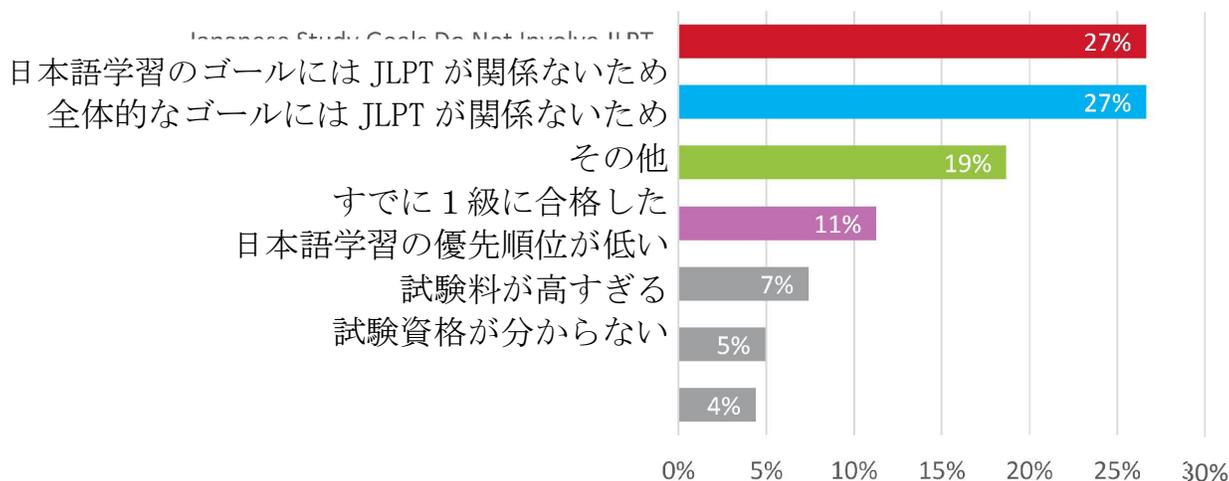


図 11

## CLAIR を通じた学習手段・資料

CLAIR では、参加者のそれぞれの日本語能力レベルに応じて、様々な日本語を学習する機会を提供している。日本語講座は、初級・中級・上級に分かれている。日本語能力レベルが高い参加者のために、翻訳・通訳講座も提供されている。近年 CLAIR が JLPT 3 級合格者に提供してきた助成金も日本語を学習する意欲を増加させる要因の 1 つである。本章ではこの機会を活用した学習手段に関する経験について検証する。

### 日本語講座

CLAIR は初級・中級・上級の日本語講座を提供している。回答者の半数以上は 1 つ以上の講座に参加し、44.3% は 1 度も CLAIR の講座を受講したことがないと答えた。回答者のほぼ 4 分の 1 (25.2%) は初級講座に、中級 (21.3%) に、上級 (19.8%) に参加した、または今受講中だと答えた。1 つ以上の講座を受講したか、受講し参加している最中の回答者で、「やや役立った」と答えたのは 47.9%、「役立たなかった」と答えたのは 34.0% であった。「役立った」と答えたのはわずか 14.5% で、「とても役立った」と答えたのは非常に少なかった (3.6%)。受講した回答者の中で、57.4% は修了したと答え、42.6% は修了しなかったと答えた。CLAIR の講座について振り返りを求められ、325 人の回答者が意見を残した。多くのコメントでは「コースが紛らわしかった」、「運営上の問題が発生した」、「日本語能力は講座の内容よりレベルが高かった」、そして、「復習する時間をもっと欲しかった」などがあった。ある回答者は「ALT の役割を中心とした内容が気に入った」と答え、そしてコースが Visual Language Japanese 会社 (VLJ) に変更になってから、講座が好きになったと答えた。ある回答者は講座の時間制限が難しすぎたと答えた。

### CLAIR の日本語講座の参加率



図 12

## CLAIRの日本語講座が役立ったか

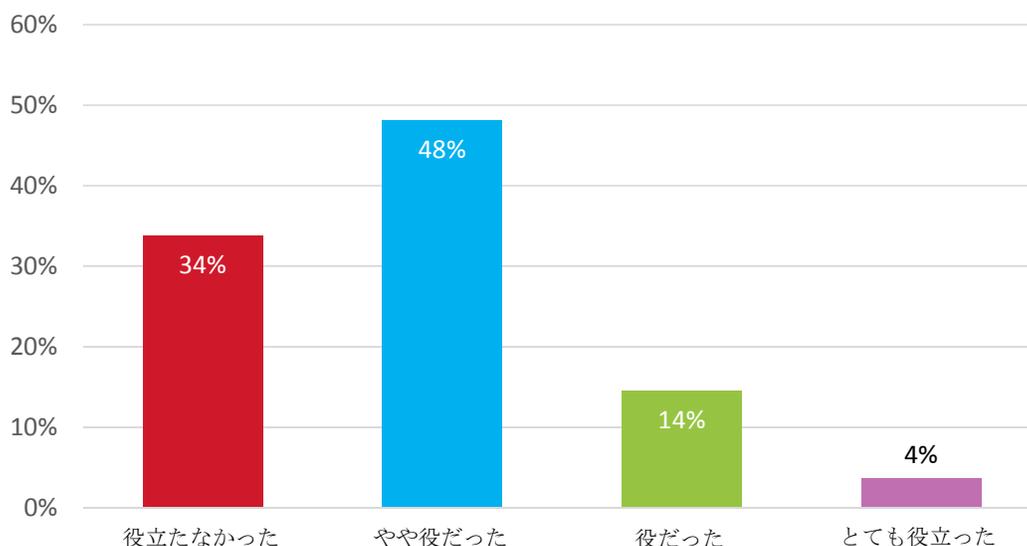


図 13

## 翻訳・通訳講座

CLAIR の翻訳・通訳講座に参加した回答者は非常に少ないが、3.4%は受講したことがあり、3.3%は現在受講している。この講座についてコメントを頼まれた際、回答者は「受講したいが、教育委員会が受講させてくれない」と答えた。他の回答者によると教科書の例文が古すぎ、現代の英語の翻訳に合わない場合が多い、または内容はCIRの上級レベルの日本語に向いてないなどという批判の声が上がった。回答者の1部は滋賀県で行われた1週間の集合研修会が貴重な体験になったと答えた。「講座のペースが速すぎる」という回答もあった。

## JLPT 3級の助成金

CLAIRはJLPT 3級合格者に助成金を提供している。アンケート調査が行われた当時、1年目の参加者は助成金を申請する機会をまだ得られないので、検討されるのは2～5年目の回答者(725人)のみである。ほとんどの回答者(95.6%)は「JLPT 3級の助成金を受け取ったことがない」と答えた。回答者は助成金を申請しない主な理由を問われ、668人が回答した。ある回答者(37.4%)は「自分の日本語能力は、未だJLPT 3級に挑戦することに十分ではないため」と答え、13.6%は「3級より上級の試験階級にすでに合格しているため」と答えた。「その他」という選択肢では、「日本語能力試験に興味がないため」、「自身は3級より高い日本語能力を持っていると思うため」を理由とし、助成金を申請しないと答えた。わずか9.0%の回答者は「助成金の存在を知らなかったので申請しなかった」と答えた。

## CLAIRのJLPT 3級の助成金を申請しない理由

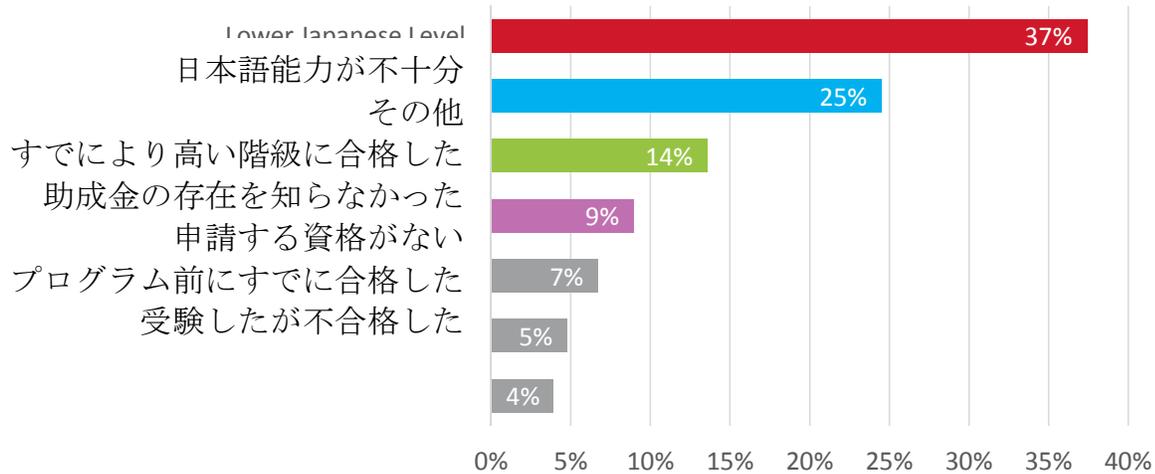


図 14

1年目の回答者を含めると、回答者の35.5%はJLPT 3級の助成金を申請するつもりだと答えた。もしCLAIRが他の試験階級にも助成金を提供したら助成金を申請する興味があるかと尋ねられると、回答者の大多数(88.6%)は「はい」と答えた。

## CLAIRのJLPT3級の助成金を申請するつもりですか。

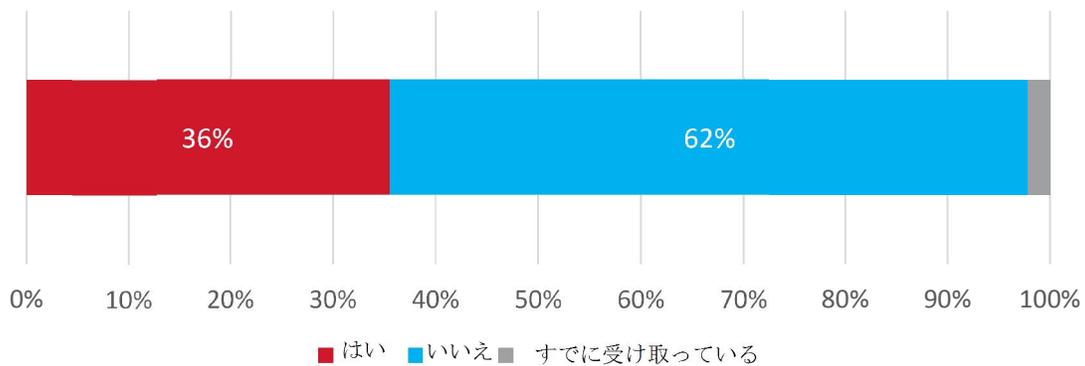


図 15

もしCLAIRがJLPT 3級以外の階級にも助成金を提供するとしたら、その助成金を申請することに興味がありますか。

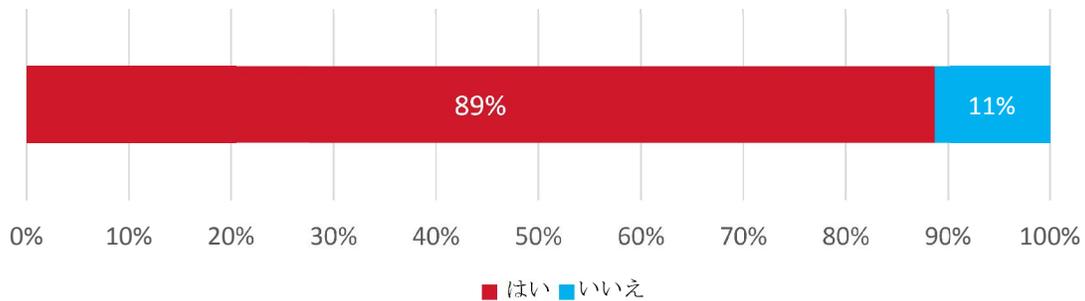


図 16

## 任用団体からの支援

任用団体は JET プログラム参加者に対して、彼らの任命の全段階にわたり、手厚く支援をしている。全国 AJET 役員会は、どうやって任用団体が参加者を支援するかということに特に興味を持っている。本章は任用団体による日本語学習支援と研究休暇の利用について探る。

## 日本語学習の支援

回答者は任用団体によって提供される日本語学習の支援について問われ、64.0%は一切提供されていないと答えた。1割以下の回答者は夏季授業、定期的な授業、研究休暇、他の情報や参考書などが提供されると答えた。ある回答者は資料を提供されるのかどうかを知らなかったと答えた。「その他」の選択肢では、ある回答者は、「到着する際に任用団体によって日本語学習を提供される」と答えた。参加者の任用団体外のコミュニティにおける日本語学習の機会については、回答者の22.5%は「任用団体から知らされている」と答えた。

### 任用団体に提供される日本語学習の支援方法

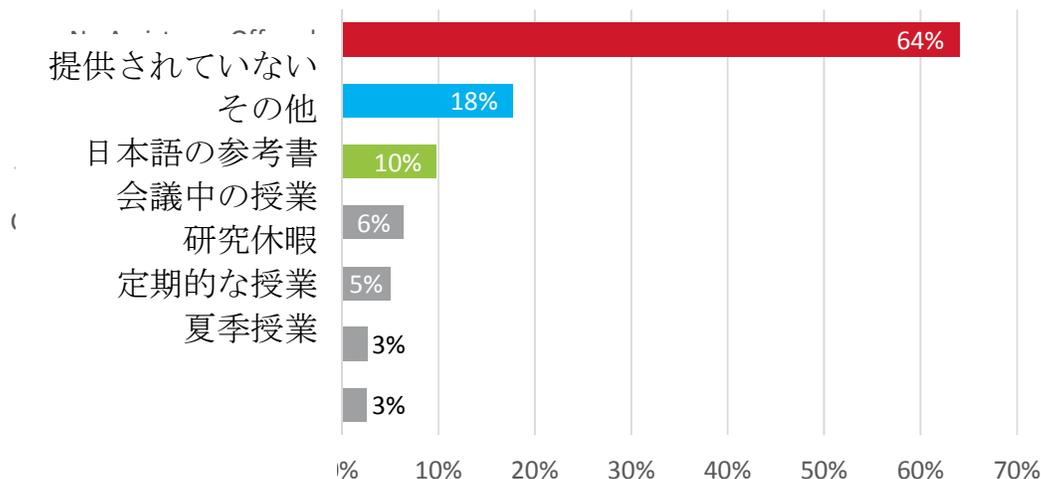


図 17

## 研究休暇

ある任用団体は研究休暇を提供する。回答者の大半以上（63.7%）は研究休暇を提供されるかどうか知らず、3割は提供されていないと答えた。わずか6.8%の回答者は、任用団体が提供すると答えた。

あなたの任用団体は研究休暇を提供していますか。

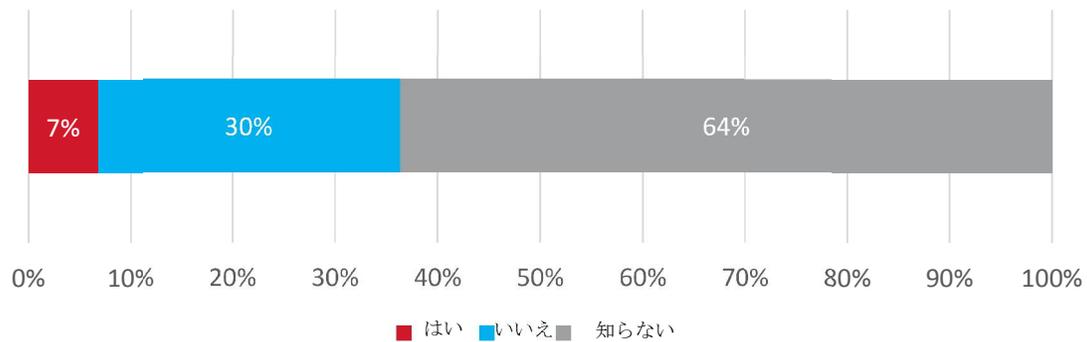


図 18

## 日常生活で用いる日本語

参加者が、職場やコミュニティによりよくフィットする機会を得られる。本章では、回答者の現在の日本語能力と、日本語を学習する意欲と日本語学習のための支援について論じる。

## 現代の日本語能力

日本にいる間に、JET プログラム参加者は日本語能力を磨く機会がたくさんある。回答者の 13.6%は「JET プログラムを始める前までは、日本語での交流ができなかった」と答えたものの、回答者が現在の日本語能力を評価すると、その数が 0.9%まで下がった。全体的に、回答者は「日本で長く過ごすにつれて、日本語能力がとても向上した」と感じ、回答者の 38.3%が「適度なレベルの日本語能力を持つ（JET プログラムの前の 27.8%との比較）」、そして 18.3%が「上級の日本語能力を持つ（JET プログラムの前の 10.6%との比較）」と報告された。一方、JET プログラムの前で流暢であったと答えた回答者、および現在の日本語能力が流暢だと答える回答者は少ない（4.4%）。

### JETプログラム参加前後の 日本語能力

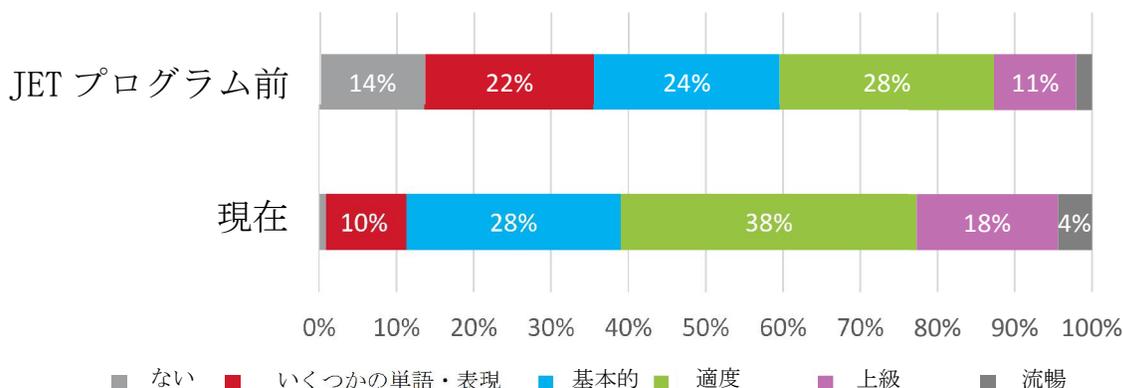


図 19

## 日本語学習の理由

回答者が日本語学習を行う理由について、1つ以上の答えの選択が可能であった。「毎日の生活を楽しむため」と答えた回答者は 87.0%で、最も選択された答えであった。一方、回答者の 5 割以上は「現在の仕事」、「将来の仕事」、「人と関わるため」、そして「趣味」を選んだので、それらも多く選ばれた選択肢であった。回答者のほんのわずか 4.4%は日本語を学習していないと答えた。

## 日本語を学習する理由

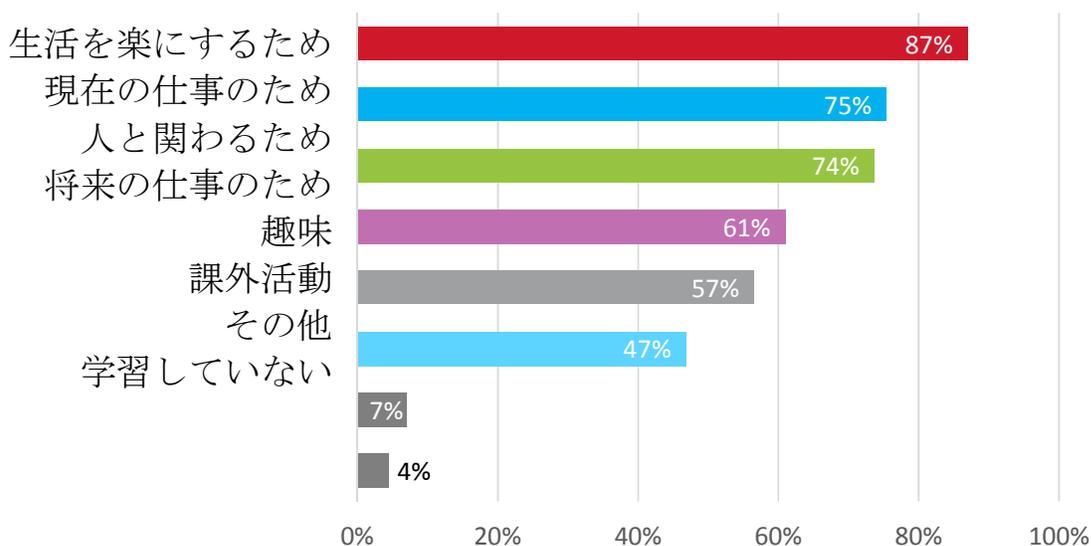


図 20

## 日本語学習の手段・資料

回答者は、住居から 30 分以内と定義された「地域のコミュニティ」でどのような日本語学習の手段・資料があるかについて問われた。回答者は活用可能な日本語学習用自習教材について「日本語の教科書」（80%）、「ウェブサイト・携帯アプリ」（77.3%）、「日本語のメディア」（73.3%）と広く報告した。一方、回答者はボランティアの行うコミュニティの授業（45.1%）、言語交流（28.5%）、日本語学習の人とのグループ学習（11.8%）などの「対面の学習の機会」が少ないと報告した。地方に住んでいる回答者の手段・資料の利用は、全体の回答者と比較できる。しかし、地方に住んでいる回答者は、コミュニティの授業、言語交流、および日本語専門学校などはあまりないと答えた。

## 地方・全地域で利用できる 日本語学習の機会

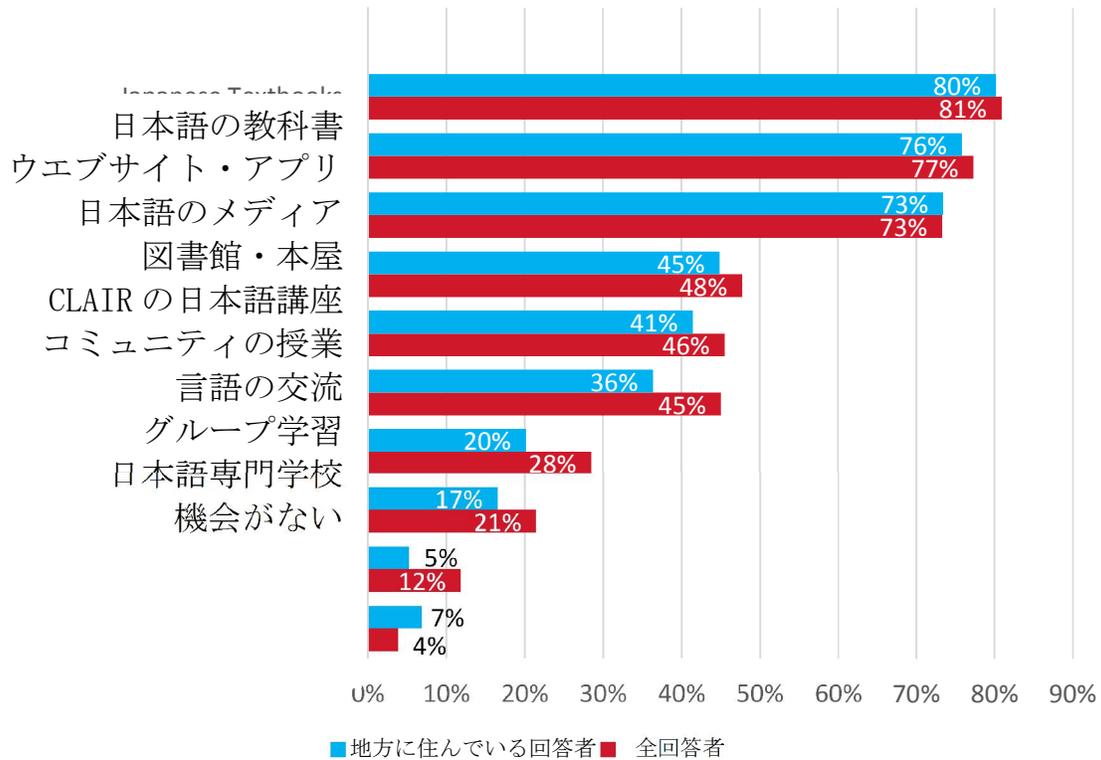


図 21

## 結論と提案

全体的に見ると、回答者は日本にいる間、自分の日本語能力が大いに上達すると答えた。回答者は日本語を学習する機会に興味を持っている。その機会を拡大することで、参加者と任用団体に有益となる。

### 結論

#### 以前の日本語の経験

回答者の大多数は、プログラム参加者になる前から日本語運用の経験があった。およそ 6 割は授業や日本語の専攻・副専攻として大学レベルの日本語を学習した。日本語を熟知しているにもかかわらず、回答者の 78.9%は JET プログラム参加前に、JLPT を受験したことがなかった。

#### JET プログラムに参加後の JLPT の受験

2～5 年目の参加者の中では、およそ半数が JET プログラム参加者になってから JLPT の階級 1 つ以上を受験したことがあると報告した。2～5 年目の参加者の中では、最も合格率が高い試験階級は 3 級 (12.1%) と 2 級 (9.8%) であった。全員の回答者の 79.4%は、「専門的能力の開発」を主な理由としてプログラムに参加している間に JLPT の階級の 1 つ以上を受験するつもりである。回答者の少数 (20.6%) は様々な理由で、プログラムに参加している間に JLPT を受験する予定がない。

#### CLAIR を通じた学習手段・資料

回答者の半数以上は CLAIR の日本語講座に参加したことがある、または現在参加している最中だと答えた。その回答者の中では、47.9%がその講座について「役立った」と答え、34.0%は「役立たなかった」と答え、14.5%が「とても役立った」と答えた。参加者のわずか 6.7%が CLAIR の翻訳・通訳講座に参加したことがある。ある回答者は翻訳・通訳講座に関心を示しているものの、任用団体に受講させてもらえていない。CLAIR の JLPT 3 級の助成金は、回答者の 95.6%は受け取っていない。一方、回答者の 88.6%はもし CLAIR が 3 級以外の試験階級の助成金を提供するとしたら申請する興味があると答えた。

#### 任用団体からの支援

任用団体からの日本語学習の支援について問われたら、回答者の 64.0%は「日本語支援を提供していない」と答えた。また、回答者の半数以上は「自分の任用団体は研究休暇を提供しているかどうか分からない」と答えた。

## 日常生活で用いる日本語

多くの回答者は日本で長く過ごすにつれて、日本語能力がとても向上したと報告し、その半数以上が自分の現在の日本語能力を適度または上級の日本語と評価している。日本語学習用自習教材は回答者に広く利用できるものの、対面の学習の機会はあまり利用できない。

## 提案

### JET プログラムに参加後の JLPT の受験

全国 AJET 役員会は JLPT 3 級に加え、他の試験階級の合格者に対しても助成金も提供することを提案する。具体的に、2 級を受験する参加者は 3 級と同数のうえ、就職するには 2 級の方が役に立つため、2 級の助成金は最も有益ではないかと思われる。一方、1、2 年目の参加者がプログラムを終える前に 3 級に合格するのが少し難しい恐れがあり、4 級の受験助成金を提供するのにも有益なのではないだろうか。このような参加者にとって、4 級は到達できそうな目標であり、日本語学習の原動力にもなれないかと思われる。したがって、4 級の受験助成金は日本語初級から中級の参加者に役に立つ。

### CLAIR を通じた学習手段・資料

全国 AJET 役員会は、この話題について論じた前回（2012 年）以来 CLAIR が日本語講座に向上をもたらしたことに対して礼を挙げる。具体的には、教科書からオンライン・モジュールを使って授業することへの移行および Visual Language Japan (VLJ) の動画付き講座の実施は特に重要な変更であることを示した。

ALT の日常的な経験を中心とした講座に加え、JLPT を中心とした講座が開講されれば、参加者に JLPT を受験する動機も与える。本調査から、1 年目の参加者を除いた他の参加者の中の約半分の回答者は、プログラムに参加している間 1 度も JLPT を受験したことはないことが分かった。4 級用のコースを開講することで参加者の興味を把握することができる。さらに、全国 AJET 役員会は現時点の上級日本語講座よりも高いレベルのコースを開講することを提案したい。

全国 AJET 役員会は、日本語講座の始まりに合わせ、毎月の学習カレンダーを今以上に明確にすることを勧める。これは、受講者の時間管理の効率化にも役に立つ。現時点の講座マニュアルに、学習の推奨時間の表がすでに記載されているが、今後さらに強調して載せられると思われる。

翻訳・通訳講座を受講できる人数を増やすことは JET 参加者にも任用団体にも有益である。しかし、滋賀県で行われる 1 週間の集合研修会があるため、全講座

を受講できる人数を増やすことは難しい。そこで、全国 AJET 役員会では、ある程度の日本語能力を持つ参加者を講座の翻訳部分だけに参加させることを提案する。そうすればより多くの任用団体が講座を受講させることが可能になるであろう。最後に、全国 AJET 役員会は、CLAIR と任用団体が職場での学習が許されているかどうか、または促されているかどうかを明確にすることを勧める。

## 任用団体からの支援

全国 AJET 役員会は任用団体に参加者のために日本語を学習することを促し、向上することを勧める。そのために、任用団体は地元の日本語講座、または日本語学習機会のガイドを作ることを勧める。有償講座などに通うための全額、および部分的な補助金を提供することも、任用団体に勧めることの 1 つである。対面の受講する機会が広く可能ではない場合のために、任用団体は都道府県・市町村のレベルで日本語講座を開講することも考えられるのではないかと思われる。全国 AJET 役員会は、任用団体が JET プログラム参加者に研究休暇を提供することを推薦し、促す。任用団体に対して、特に ALT のために、冬・春・夏休みのような長期休業時に取得可能な研究休暇を提供することを勧める。

## 日常生活で用いる日本語

全国 AJET 役員会は、アンケート調査の結果を考慮に入れて、AJET の県支部がそれぞれのコミュニティで日本語学習の機会を推進するよう促す。全国 AJET 役員会のウェブサイト運営サイドは現在、日本語学習用の教材の開発・運用に尽力しているセクションを持ち、これは県支部を通して参加者に勧められるべきである。また、全国 AJET 役員会としては、italki.com などのインターネットを使った対面の学習の機会、および HiNative や HelloTalk などのスマートフォン・アプリで利用できる対面の学習の機会も推進することを考慮する。

# 質問

## 質問 1:

調査結果によると、2級に合格したいと回答した人の数は、3級に合格したいと回答した人の数と同じであった。また、かなりの回答者が、2級に合格した人が助成金を利用できるようにしたほうが良いと回答した。それは、2級以上を持つという条件を満たさなければ、ほとんどの国内企業に就職できないからである。そこで、CLAIR では、JLPT の助成金を、3級以外の合格者が利用できるようにする取り組みが、どこまで進んでいるのか教えてほしい。

## 質問 2:

現時点では、助成金を利用する条件は、JET プログラムの1～3年目の参加者で3級に合格した人しか利用できないが、今後は、4～5年目の参加者にも利用できるようにしていくのか。また、3級以外の合格者が利用できるようになった場合は、どうなるのか。

## 質問 3:

CLAIR が開講する講座を今より範囲を拡大する可能性があるであろうか。例えば、より多い数の参加者が翻訳・通訳講座に門戸を開くことはないであろうか。JLPT を中心にする日本語講座を開講する可能性はあるか。また、今の上級日本語講座より上級な講座が開かれる可能性はあるか。

## 質問 4:

JET プログラム参加者の職場で学習することについては、CLAIR として公式見解はあるか。

## 質問 5:

JET プログラム参加者に研究休暇を提供している任用団体も存在している。CLAIR は、より多数の任用団体が参加者にこの休暇を提供する方針を促進してもらえるか。

## 質問 6:

全国 AJET 役員会がアンケート調査を行う際には、CLAIR は、現役の JET プログラム参加者にアンケートを電子メールで配付することに協力してもらえるのか。

## 質問 7:

小学校のカリキュラム変更について ALT に知らせる計画はあるのか。ALT が引き受ける業務が増加するのか。また、カリキュラム変更に対応できるように、幅広い研修を行う可能性はあるのか。このような課題に対して、全国 AJET 役員会には、どのような取り組みや役割が求められているのか。

## 質問 8:

ALT が任用団体で勤務し始める前に受ける研修時間を増やす予定はあるのか。参加者の大部分が小学校・幼稚園で勤務しているゆえに、授業活動案内を 1 人で作成する責任があり、そのうえ初心者レベルの日本語でしかコミュニケーション取れない場合も多数ある。

## 質問 9:

参加者がメンタルヘルス・精神的保健福祉の支援を探する場合、機密性を保証するために、どのような措置が取られているか。具体的に、JET プログラム参加者が CLAIR の精神衛生事業を任用団体ではなく、取りまとめ団体アドバイザー (PA) を通してアクセスするようになるという取り組みは進展しているか。

## 質問 10:

3 省（総務省、文部科学省、外務省）と CLAIR は日本人英語担当教員 (JTE) 用、特に小学校の担任教師用の英語教育準備訓練、および訓練資料を選ぶことについてどのような役割を持っているか。この選定過程に CLAIR が役割を持っている場合、なぜその資料の大部分が英語で書かれているかを述べていただけないか。

## 質問 11:

(JET プログラムに) 参加する任用団体は CLAIR からどのような情報、またはガイドライン、を得ているのか。(例えば、任用団体を中心する「JET 参加者用ハンドブック」など) AJET 役委員も任用団体へ配布された資料を入手できるのか。

## 質問 12:

CLAIR は、日本人の職員が取れる 3~5 日間の夏季休暇が JET プログラム参加者にも与えるように任用団体に推奨することを検討するであろうか。

## 質問 13:

CLAIR は、プロフェッショナルな人材を増やすために、指導力等向上研修の講師を雇い、またはそのような研修を主催するプロ言語グループ（JALT、JII、ESTEEM、JACET など）と協力するつもりはあるか。

## 質問 14:

全国に指導力等向上研修に関わる基準とポリシーは何であろうか？例えば、最低限の条件など。

